

事務 事業名	コード1	19900	環境美化推進事業	課	環境課		
	コード2		きれいな旭をつくる会補助金 ☐ 主要事業	所属班	環境美化班		
				電話番号	62-5329	内線	475
施策 体系	基本方針	2	快適でうるおいのあるまちづくり	予算	会計		
	施策	1	環境保全対策の充実	科目	一般会計		
	施策の展開	2	きれいなまちづくりの推進	根拠	きれいな旭をつくる運動推進基本要綱第8条第2項		
	基本事業	78	環境ボランティア活動の支援	法令			

1 現状把握(Do)

(1) 事業概要

① 事業期間	② 事業の内容 ※何をどのようにする事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない
☒ 単年度繰返 ☒ 平成 19 年度～ ☐ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで ※全体像を記述⇒	きれいな旭をつくる会を運営する事業。きれいな旭をつくる会(委員25名、市長が会長) 事業内容 ①ゴミゼロ運動 春と秋の年2回開催する。朝8時～9時まで区・自治会ごとにゴミ拾いを行う。 ②花いっぱい運動 夏と秋の年2回花の苗木を配布・植替を行う。 ③環境衛生大会の開催 講師を招いて講演会の開催、環境美化活動功労者の表彰、環境美化に関する標語優秀者を表彰する。 ④環境ボランティア登録団体・環境美化モデル地区の育成 日常的にきれいな旭をつくる運動の一環として、公共的な場所(公園・道路・河川・ため池・海岸等)の定期的な清掃活動や、美化及び緑化活動を行う区・自治会を環境美化モデル地区、ボランティア団体を環境ボランティア団体として登録し、活動実施人数によって報奨金を支給しボランティア活動を支援する。 【業務の流れ】 ①ゴミゼロ運動 区・自治会に連絡 ⇒ 当日参加 ②花いっぱい運動 区・自治会・各公共施設・小中学校・保育園・幼稚園等に連絡 ⇒ 花の受け渡し ③環境衛生大会の開催 企画 ⇒ 準備 ⇒ 当日受付 ⇒ 後片付け ④環境ボランティア登録団体・環境美化モデル地区の育成⇒団体・地区の申請受付⇒審査⇒登録決定通知⇒実績報告⇒報償金額の決定⇒報奨金交付

(2) トータルコスト

① 事業費の内訳(25年度の実績)	単位:千円
1. 委員会費	9:きれいな旭をつくる会委嘱式及び総会等会議お茶代
2. 推進費	1,897:ゴミゼロ運動袋代 花いっぱい運動苗木代 ゴミ捨て防止看板作成費用等
3. 大会費	482:環境衛生大会開催にかかる費用
4. 印刷費	47:ゴミゼロ運動のチラシ作成費用
5. 助成費	1,539:環境美化モデル地区・環境ボランティア団体報奨金
【前年度比増減理由】不法投棄防止看板の需要が多かったため多く作成したため	
② 延べ業務時間の内訳(25年度の実績)	単位:時間
委嘱式及び総会 20h 春のゴミゼロ運動 80h 環境モデル地区指定 20h	
環境ボランティア団体指定 20h 春の花いっぱい運動 20h 海岸清掃	
40h 秋のゴミゼロ運動 80h 秋の花いっぱい運動 50h 環境衛生	
大会 120h	

事業費	費目内訳	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
事業費	1. きれいな旭をつくる会補助金	千円	3,579	3,713	3,974	3,610
		千円				
		千円				
		千円				
		千円				
事業費計(A)		千円	3,579	3,713	3,974	3,610
うち一般財源		千円	3,579	3,713	3,974	3,610
人件費	正規職員従事人数	人	0.20	0.20	0.22	0.22
	延べ業務時間	時間	400	400	450	450
	人件費計(B)	千円	1,520	1,520	1,710	1,710
トータルコスト(A)+(B)		千円	5,099	5,233	5,684	5,320

(3) 事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

手段	① 主な活動	⑤ 活動指標名	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
	25年度実績(25年度に行った主な活動) ①ゴミゼロ運動(2回)・海岸清掃(1回) ②花いっぱい運動(年2回) ③環境衛生大会の開催 ④環境ボランティア団体・環境モデル地区育成 26年度計画(26年度に計画している主な活動) 花いっぱい運動が年1回(秋のみ)に変更以外は昨年度と同様に実施	ア ゴミゼロ運動の延べ参加者数(実施回数)	人	8,483 (1回)	18,289 (2回)	18,353 (2回)	18,400 (2回)
		イ 花いっぱい運動 苗木配布数	本	15,852	16,000	16,868	6,000
		ウ 環境モデル地区数	区	10	11	14	13
目的	② 対象(誰、何を対象にしているのか)	⑥ 対象指標名	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
	①③ 市民 ②④ 団体、区・自治会	ア 人口(4月1日現在)	人	69,749	69,223	68,725	68,241
		イ 地域団体数(区、自治会数)	団体	156	155	155	155
上位目的	③ 意図(対象がどのような状態になるのか)	⑦ 成果指標名(考え方)	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
	①路上等にポイ捨てされたゴミを片付けてきれいにする。 ②花を植えて、潤いのある地区にしてもらう。 ③環境をきれいにする事の大切さを再認識してもらう。 ④モデル地区、ボランティア団体を結成して、実際に地域で活動する。	ア ゴミゼロ運動時に収集した発生量(実施回数)	kg	16,150 (1回)	29,150 (2回)	28,740 (2回)	28,000 (2回)
		イ 新規登録環境ボランティア団体数	団体	0	2	5	3
上位目的	④ さらに、どんな上位目的に結び付けるのか	⑧ 上位成果指標名(考え方)	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
	①市民協働がすすむ。 ②きれいなまちづくりが推進される。	ア 環境美化モデル地区・環境ボランティア団体数・登録数	団体	25	29	34	37
		イ 環境ボランティア延べ従事人数	人	3,780	4,694	3,715	3,800

(4) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 開始したきっかけは何か?どんな経緯で始まったか?	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか?開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったか?	③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?
市民の環境に対する意識の高揚と自主的な活動の活性化を目指して始められた。	ボランティア活動従事者は開始時期と比べ増えてきている。一方で高齢化により活動ができなくなった団体もある。また、美化推進事業が例年とおりで変化がない。	花いっぱい運動参加者からは、「ありがとうございます。」などの意見がある。その一方で、「毎年同じ事業の繰り返しではないか」といった意見もある。

事務事業名	環境美化推進事業 きれいな旭をつくる会補助金	課名	環境課	班名	環境美化班
-------	---------------------------	----	-----	----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価

目的 妥当性 評価	① 施策体系との整合性 この事務事業の目的は市の施策体系に結びつくか？意図することが上位目的に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】 この活動により、市民の環境に対する美化意識の向上に結びついている。
	② 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】 市民すべてが対象であるため適切である。意図についてもきれいな旭をつくる会の様々な活動が全て環境に対する美化意識の向上につながるものであり、適切である。
	③ 行政関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して実施すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】 きれいな旭をつくる会の一環事業であり、事業内容についても市民活動による協働のまちづくりの観点からも市が関与して行うべきである。
有効性 評価	④ 成果の現状水準 あるべき水準や目標に達しているか？近隣市や類似団体と比較してどうか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 妥当である ⇒【理由】 ゴミゼロ運動時に収集した発生量は、目標としている水準(28,000kg)より減少しており、ポイ捨てごみ等の減に結びついたと思われるため妥当である。 しかし、環境ボランティア延べ従事人数、新規登録環境ボランティア団体数はもっと増やしたい。
	⑤ 成果の向上余地 次年度以降の成果向上が期待できるか？事務事業を取り巻く環境変化等を考慮するとどうか？成果の向上余地はどの程度あるか？	☐ 活動量を増やせば成果は向上する ⇒【理由】 ☒ 活動量を増やさなくても、やり方を工夫することで成果は向上する ⇒【理由】 ☐ 活動量を増やしたり、活動を工夫したりしても、今以上成果は向上しない ⇒【理由】 現状を分析した上で、やり方の工夫によっては成果向上は可能。 市民の中で気軽に参加できるイベントの設計・実施やボランティア団体登録制度の簡素化により、環境ボランティア延べ従事人数、新規登録環境ボランティア団体数は増やすことができる。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業の他(民間・国県を含む)に方法があるか？ ↓ 他に手段がある場合 (1)具体的にどのような事務事業か？ (2)類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある ↳ (1) 事務事業名：(農水産課の事業 花の販売促進事業) (2) ☐ 統廃合ができる ⇒【理由】 ☒ 連携ができる ⇒【理由】 ☐ 既に統廃合・連携している ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 現状把握は今の段階ではできていないが、登録していない市民の活動や農水産課の事業などがあるので、連携は可能。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(表面トータルコストの事業費部分) 事業費を削減できないか？(経費の精査、過剰仕様の適正化、回数削減、住民の協力、アウトソーシングなど)	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 現状の活動を工夫することで、より事業費の削減や節約が可能。 花の苗木の配布箇所を選定することにより、花の苗木代を節約することができる。
	⑧ 人件費の削減余地(表面トータルコストの人件費部分) やり方の工夫(業務プロセスの改善など)や臨時職員の活用・委託により、正規職員の延べ業務時間を削減できないか？	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 現状は花いっぱい運動の苗木を配布しているが、1か所に来てもらい市民に手渡す方式に変えれば業務時間の削減につながる。また、環境衛生大会の開催をNPOに委託すれば、業務時間を削減することができる。
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 市民すべてに美化推進活動に参加してもらい、きれいなまちづくりを目指しているため、一部に偏っているわけではない。

3 評価(Check2)担当課長による評価結果と総括

(1)1次評価者としての評価結果			(2)全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	今後も継続して事業を実施する。新規ボランティア団体をいかに育成するか。環境ボランティア延べ従事人数、新規登録環境ボランティア団体数はもっと増やしたい。苗木の選定では、多年草にするといいのではないかな。地域の優先順位、重点地域を設定するか。恒例化した活動をどうするか。
② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	
③ 効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(Plan)

(1)今後の事業の方向性(複数選択可) ※2～3年後を目処にした方向性		(3)改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)
☐ 目的再設定 ☒ 事業のやり方改善による成果向上 ☒ 事業のやり方改善による事業費削減 ☐ 受益機会の適正化 ☐ 廃止・休止 ☐ 行政関与の見直し ☒ 事業統廃合・連携(関連事業:農水産課の事業 花の販売促進事業) ☒ 事業のやり方改善による延べ業務時間削減 ☐ 費用負担の適正化		
(2)改革改善案について ※いつまでに、なにを、どうするのか？		
いつまでに	なにを、どうするのか？	
3年後をめどに	①苗木の方針検討、種類選定・数の再設定(地域重点化・基準明確化) ②苗木の配布方法の変更 ③新規ボランティア団体登録制度の簡素化 ④市民の中で気軽に参加できるイベントの設計 ⑤イベントに参加してくれそうな団体を見つける ⑥NPOに環境衛生大会を委託する。	
(4)改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策		
他の事業と連携できる部分もあると思われるため、他課の事業を把握しなくてはならない。 農水産課で把握している花農家を紹介してもらい、旭市の花農家より苗木を購入して配布する。		